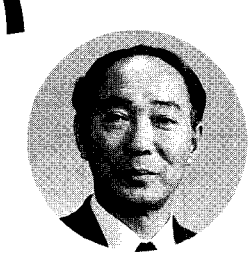
小須戸公民館報

発行 小須戸町中央公民館
〒956-0101
新潟県中蒲原郡小須戸町
大字小須戸117番地
TEL (0250)38－2234
FAX (0250)38－5210
編集 公民館報編集委員会

子どもに学ぶ

～心をはずませて遊ぶ中で～



小須戸幼稚園長　古田恒夫

自然との触れあいでいろいろなことを学ぶ子どもたち

自然と遊び学ぶ

梅雨の季節を間近に控え、自然の様々な事象に子どもたちの好奇心が一段とかき立てられる時期になりました。

入園、進級から二か月が経ち、子どもたちが美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れた時の感激など、子どもたちの小さな心のときめきに教えられることの多いこの頃です。

幼児の好奇心を駆り立てるのは何といっても四季折々の自然や幼児の触れ合える動植物の環境だと思います。初夏のここちよい風に誘われて、園庭に飛び出していって見つけた小動物や草花は、見るだけでも心がなごみますが、ついつい触ってみたくなるのが園児の気持ちだと思います。

心をはずませ、草花を摘んで花束にしたり、ごちそうに見立てたり、どんなに小さな虫や昆虫でも動くものには興味を持ち、追いかけ回していることがよくあります。

自然はこちらから働きかければすぐ応答してくれるし、さらに新たなものを生み出してくれます。そのような環境に幼児は好奇心をもってかかわり、いろいろなことに気付いたりして心を揺り動かされてます。

けんかの仲裁は難しい

集団生活にけんかはつきものですが、とりわけ遊びの中で起こるけんかは、幼児の成長に大変大きな意味を持つと言われています。人とのかかわりの最も基礎を培う幼児期には、幼児一人ひとりが互いに自分を主張したり、ぶつかりあったりする中で争いながら相手の存在に気付いていく経験が重要ではないでしょうか。

けんかの要因は様々です。ちょっとした口げんかやいがみ合い、時にはつかみ合い、叩き合い、さらには取っ組み合いに至ることも少なくありません。幼児教育にあたる人は、常にそうしたトラブル発生の現場に遭遇することを避ける訳にはいきません。頭の痛いことですが、そのような事態の時こそ担任教師の力量が問われるところでもあり、緊張させられます。

いざこざの原因も、物や場所の専有をめぐってのいざこざ、ルール違反を指摘されて生ずるいざこざ、遊び方を決める際の主張の対立、突発的なことで互いに非難し合うなど多様で、その場の状況に対応するには相当な配慮が必要です。

遊びやけんかの中でお互いを認めあう

集団保育においては、保育者がけんかの一部始終を見届けていることはめったにありません。その多くは、子どもからの訴えで、けんかの状況がつかみきれないまま対応しなくてはなりません。当事者の言い分を公平に聞き、子ども同士が相互に納得できる介入でなければならないところに仲裁の難しさがあります。双方の言い分を十分に聞くことによって、対立していたそれぞれの立場の子どもが、少なくとも保育者には自分が受け止められたと思えることが大切なのではないでしょうか。

このことは、家庭でも同じことだと思います。

手をかける・目をかける

「手をかける」とは、子ども一人ひとりの手を取り足を取り、大事に育てる「手塩にかける」と同意で親が子どもに対して手をかけて育てることは親の愛情からして当然ですし、子どもの成長にとってきわめて大切なことです。

「目をかける」とは、親が子どもの行動や顔の表情をしっかり見つめ心の動きや考えを十分理解してやることです。

子どもの考えや行動が正しければ褒め、間違いがあればそれに気付かせ正しい選択ができるように育てることです。

人が生きていく上で必要な基本的生活習慣が形成される幼児期から児童期にかけては「手塩にかける」教育も重要ですが、「目をかける」教育も大切です。

しかし、中学・高校と成長するにつれて、親からの心理的離乳や自我の確立等、人間として独立した存在に成長していきます。

子の成長に伴い、親は子どもと密着しすぎない心の距離を置き、子ども自身の持つ能力や可能性を信じて目をかけてやっていきたいものです。

ちょこっと一言 (123)

あるお年寄りの自己防衛

中央町一　保科唯雄さん

最近の話である。A銀行員の方がお茶を飲みながらいわく、町在住のひとり暮らしのお婆ちゃんへ集金に訪問するが、年々体力の衰退を感じ、年金と若干の貯えで生活をしてるとか…。夜は見たいテレビも見ずに、早目に床に就き電気代を倹約してるそうである。このお話を聞き何か割り切れぬものを感じる。世情の小子化・高齢化の現象が徐々に表面化してる気がしてならない。兄妹は?子どもはいるのか?余計な詮索が走るのである。最近は、暗い話が多いようだが、一日でも早く、明るく楽しい話ができる日を、心待ちしている一人である。

第五十三回 県展入選 おめでとうございます

書道部門で三名、写真部門で四名の方々が入選されました。

〔書道〕
坂井スイさん（中央町三）
竹石千鶴さん（中央町一）
菊地伸一さん（新町四）

〔写真〕
風間ヤヨエさん（若葉町三）
風間忠雄さん（花園町二）
島倉秀衛さん（新保三）
高橋正子さん（うでこき一）

以上の方々です。

なお、作品紹介は六月号、七月号、八月号でおこないます。

「李白詩」

菊池伸一さん

あまり意図せずに書き連ねたら、この様な姿になりました。これが自分なのかもしれません。

「あ、ごめんね」

風間ヤヨエさん

昨年、中学校の運動会で撮ったひとコマです。

中学校の皆さんありがとうございました。

アルミ缶回収についてお願い

町のみなさんのご理解とご協力をいただいています〝アルミ缶回収〟ですが、これから夏に向けて公民館にお持ちいただく機会も多くなろうかと思います。

アルミ缶以外は入れずに、缶をつぶしてお持ちいただければ助かります。

社会教育指導員が決まりました

六月より社会教育指導員として坂井勝衛さんが就任しました。

よろしくお願いします。

坂井勝衛さん

親子チャレンジ教室スタート

まずは「畑づくり」に挑戦

連日の雨が、カラリと晴れあがり、畑づくりには絶好の天気となりました。

参加者二十組の親子が集まり、どの顔もチャレンジ精神がみなぎって、支度もよろしくやる気満々に見えました。

畑は福祉センター脇にあり、栽培する作物は、スイカ・メロン・枝豆・サツマイモ・人参・トウモロコシの七種からそれぞれの親子が希望する二品目を選び、愛情を込めて育てていきます。

特に今回は、農業改良普及センターから専門の講師を招きました。

チャレンジャー達は、真剣な面もちで講師の説明に耳を傾け、適切な指導で各自が思い思いに苗を植え付けました。

汗した後の親子の顔は実に晴れやかに見えました。しかし、この後の世話が大変です。収穫までの骨折り、そして愛情のそそぎ方こそチャレンジの目的の一つと言えるでしょう。

畑づくりの他に「親子チャレンジ教室」では、ブーメランを作ったり、カヌーに乗ってみたりといろいろな事に挑戦します。

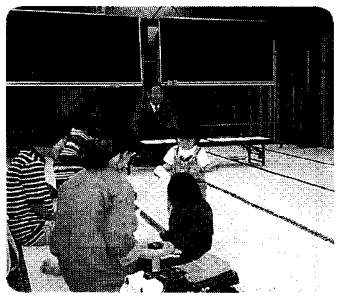
親子で大きな感動を味わっていただきたいと思っています。

専門の講師を招いての苗の植え付け。

愛情を込めてしっかりと育ててあげてね。

5月のナイスショット

6日　陶芸入門教室
講師の押味先生の熱心な指導のもと作品づくりスタート！


8日　家庭教育学級「つくしんぼ」
今年も多勢の親子が参加しました。楽しい教室にしましょうね。

11日　茶道入門教室
おいしいお茶をいただく前に、まずは作法から。

図書だより〈新刊案内〉

▼中央公民館▲

○宣戦布告（上・下）　麻生　幾
○密告　真保　裕一
○凍りついた香り　小川　洋子
○催眠　松岡　圭祐
○「犠牲」への手紙　柳田　邦男
○愛する勇気が湧いてくる本　遠藤　周作
○気がきく人気がきかない人　山形　琢也
○寂聴あおぞら説法　瀬戸内寂聴
○ハプスブルク一千年　中丸　明
○仮面の国　柳　美里
○中坊公平の「人間力」　中坊　公平
○子どものための哲学対話　永井　均
○老人とカメラ散歩の愉しみ　赤瀬川原平
○無言の名誉（上・下）　ダニエル・スティール
○大破局（フィアスコ）　フランク・パートノイ
○うたかたの恋と墓泥棒　ゲオルク・マルクス
○道ばたの食べられる山野草　村田　信義
○地球温暖化で何が起こるか　S・シュナイダー
○人生、「不器用」に生きるのがいい　藤原　東演
○患者が主役だ！　和田　努
○寵妃ロクセラーナ　澁澤　幸子
○絵でわかる心理学　浅野　八郎
○歴史の中の新潟人国記　佐藤　国雄　堺屋　太一
○欣求楽市　矢沢　潔
○謎の科学30理論　他三十五冊

▼ふれあい会館▲

○心室細動　結城　五郎
○絶対音感　最相　葉月
○朝霧　北村　薫
○「昭和」という国家　司馬遼太郎
○大河の一滴　五木　寛之
○男というもの　渡辺　淳一
○新潟県の不思議事典　花ヶ前盛明　椎名　誠
○砂の海
○医者が末期がん患者になってわかったこと　岩田　隆信
○人生には何ひとつ無駄なものはない　遠藤　周作
他四十三冊

催し物ご案内

◎民謡節峯会
創立二十周年記念発表会
日時　七月五日（日）
午前十時三十分から
会場　ふれあい会館
特別出演　三藤精花先生
賛助出演　鎌倉民謡同好会
鎌倉友の会
矢代田民謡友好会
矢代田幸代会
主催　民謡節峯会
後援　小須戸町民謡連盟
小須戸町中央公民館
小須戸町文化協会

◎七月のおもしろ雑学講座
日時　七月十日（金）
午後七時三十分～九時
講師　森平淳子さん（精神科医）
テーマ　「痴呆性老人と家族」

◎平成十年度教科書展示会
教科書の比較検討等により一層の研究を深めてみませんか。
期間　六月二十五日（木）から七月八日（水）まで
※月曜日は除きます。
午前九時～午後四時三十分
会場　新津市市民会館（新津市程島）
問い合せ　新津市教育センター（☎二四―二一一一）

スポーツ大会結果

第五回小須戸町ダブルステニス大会

五月二十四日（日）に小須戸町スポーツ公園テニスコートで開催されました。

―大会成績―（敬称略）

〔男子ダブルス〕
一位　臼井智洋・臼井久樹組
二位　谷山正人・井上敏行組
三位　田村幸夫・佐藤進一組

〔混合ダブルス〕
一位　吉田正信・酒井亜希子組
二位　田村幸夫・田村米子組
三位　井浦国重・酒井千枝子組

ふれあい電話相談

◆七月の相談日
三日(金)・十日(金)・十七日(金)
二十四日(金)・三十一日(金)
◆受付時間
午後一時～五時
◆電話番号
三八―三三〇〇
●お名前は、言わなくていいです。
●秘密は、固く守ります。

シリーズ「今、子どもたちは」(22)

創立記念「演劇鑑賞」

矢代田小学校

先月、五月十五日は矢代田小学校の百二十四回目の創立記念日でありました。

昔の様子をまとめたビデオ放送を見て、四年生の作文発表と校長先生のお話を聞いた後、劇団による「青い鳥」「ベニスの商人」の演劇を観賞しました。

子どもたちの感想文には内容はもちろん、劇団の人の迫力ある大きな声や急に暗くなったり赤や青に変わったりする照明、すばらしい効果音の驚きなどの感動が表われていました。

演劇観賞を始めて二年目になりますが、昨年の六送会ではどの学年も劇を取り入れた内容になりました。

「私は、これを見て、劇団に入りたいと思いました。」

「今日のことは忘れません。本当に楽しかったです。」と文を結んでいる子どもたちに是非、来年もいい演劇を観せたいと思います。

リストアップ

楽窯会

中央公民館陶芸教室で学んできた人たちで、四月から自主活動として発足しました。

自分の手で粘土で形を造り釉薬（ゆうやく）を塗って千二百度の高熱で焼き上げます。

指導して下さる田辺先生は心の広い明るく暖かい気持ちの良い方です。窯を愛し陶芸の魅力に魅せられて集まった人たちで、会の名前も先生がつけて下さいました。

会員は、男女十八名です。陶芸は奥が深く長い歴史があります。今は、趣味を持つ家庭の主婦の方が大勢おります。

毎月第一・第三金曜夜七時半より九時まで福祉センター隣の陶芸場で、楽しく自主活動をしています。

造るのは、湯飲み・コーヒーカップ・茶器・花器・皿等色々です。

失敗談や様々な話をしながら、時間の過ぎるのも忘れて一生懸命に楽しく頑張って張り切っています。

特に、田辺先生がおられると笑いが止まりません。

文芸欄

川柳

政治家の肚を見透すめがね欲し　栗原ひさし
サングラス何か秘密を匂わせる　渡辺信子
責任は問えぬ掛けてたサングラス　藤井春江
眼鏡越し他人を覗く好奇心　高橋ただし

短歌

肉店のトラック止まりし豚舎から　村山文子
あかからさまなる泣き声響く
早苗田をさざ波立てて風渡る蒲　本多玲子
原平野広くすがしも
降り積る雪に静けさ埋まる夜に　村山睦
癒えざる君の訃報を聞く
強情はわれの内にも等分に姉と　野俣怜子
いふ字が諌めてゐたり

俳句

初蝶のとまる枝あり雑木山　高橋みどり
海棠に声なきこゑをささやきぬ　中野太浪
水音に億年の石あたたかし　吉田素糸
隣り家と一つ抜け道花大根　間野良遊
夜の蛙眠りの中に溶け入れり　丸山虚秋
ひさびさに会ふ同年や夕ざくら　間野えり
緑さす子育延命地蔵尊　馬場綾子
連れの名を時折呼びて木の芽摘む　篠田悦子
全校生二十五人の花筵　丸山栄子